

第8回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和7年8月1日(金)
開会 14時45分 閉会 15時39分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|-------------|
| 教育長 | 中村 正芳 |
| 委員(教育長職務代理者) | 上地 玲子 |
| 委員(教育長職務代理者) | 服部 俊也 |
| 委員 | 田野 美佐 |
| 委員 | 須江 健治 |
| 教育次長 | 後藤 博幸 |
| 教育次長 | 佐々木 亨 |
| 学校教育推進監 | 室 貴由輝 |
| 教育政策課 | 課長 小林 伸明 |
| | 副課長 小野 敏靖 |
| | 総括副参事 滝澤 容彦 |
| 教職員課 | 課長 苅田 直樹 |
| 義務教育課 | 課長 横山 智康 |
| 高校教育課 | 課長 鶴海 尚也 |
| 特別支援教育課 | 課長 江草 大作 |
| 生涯学習課 | 課長 滝澤 幸隆 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 附議事項
- (1) 令和7年度末校長・教員等人事異動要綱について
 - (2) 令和8年度使用教科用図書採択について
 - (3) 岡山県生涯学習審議会委員及び岡山県社会教育委員の任命等について
- 6 報告事項
- (1) 令和7年度全国及び岡山県学力・学習状況調査結果の概要について

7 その他

8 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、附議事項（2）は教育行政の公正を確保する必要があるため、附議事項（3）は人事案件であるため、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

（特になし）

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。附議事項（2）附議事項（3）は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

附議事項（1）令和7年度末校長・教員等人事異動要綱について

- ・教職員課長から資料により一括説明

(教育長)

これより採決に入る。議第6号について、原案に賛成の委員について挙手を願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、議第6号は原案のとおり決した。

報告事項（1）令和7年度全国及び岡山県学力・学習状況調査結果の概要について

- ・義務教育課長から資料により一括説明

(委員)

児童生徒の文章読解力の低さが課題であり、CBT方式の試験においても、紙媒体と比較してパソコン画面上での文章理解に戸惑う声や使い方がわからない等の声があったか。

(義務教育課長)

中学校理科で初めて CBT 方式を導入した結果、機器の不具合による大きな問題が発生したという報告は上がってきていないものの、画像・動画を用いた新しい問題形式への戸惑いがあった可能性はある。

読解力の課題とともに、児童生徒が問題の本質的な理解ができていない可能性があるため、実体験に基づいた授業改善が必要だと考えている。

(委員)

児童生徒が問題文の意図を正確に読み取れていないことが、解答の正確性に影響を与えている可能性が高いと考えている。文章読解力向上の課題の改善を図ってほしい。

(義務教育課長)

岡山県は以前は児童生徒の読解力が高かったが、近年は全国的な傾向と同様に低下傾向にある。しかし、読書好きの児童生徒の割合や読書時間は、前年度よりは下がっているが、全国平均と比較してまだ小中ともに高い水準を維持している。

(委員)

現代の児童生徒は動画視聴に慣れすぎているため、文章から想像力を掻き立てる、イメージを構築する能力が低下している可能性がある。これは、デジタルネイティブ世代特有の現象であり、文章読解力の低下に繋がっている可能性を懸念している。

(義務教育課長)

児童生徒の文章読解力、特に文章の意図を汲み取り、読み手の立場に立って文章を解釈・構成する能力に課題が見られる。全国調査でも、中学校3年生の国語において、「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」設問に対して、「無解答」の生徒が3割にも上るという結果が出ている。

(委員)

問題の本質を理解するためには、繰り返し解かせることは、理解力を見つける方法の一つだと考える。問題一つ一つ概念を教えていくことも大切。

(義務教育課長)

小学生において、割合の計算はできるものの、小数や百分率等概念理解が不十分な児童が多く、実生活への応用ができないことが課題となっている。基礎基本の徹底に加え、実体験に基づいた理解を促す授業改善が必要だと考える。

(委員)

児童生徒の「学びに向かう力」、特に課題解決能力や自己調整能力の育成方法について、小学校における指導方法や、その能力を生涯にわたって育成するためにどのような方法をしているのか。

(義務教育課長)

岡山県の児童生徒は学習の意義は理解していても、主体的に学びたいという意欲を持つ児童生徒が少ない。そこで、岡山型 PBL などを活用し、児童生徒が自ら学びたいと思えるような課題提示や、自己調整能力を育成する指導方法の工夫が必要だと考えている。学習内容に応じて、基礎基本の定着を目的とする説明中心の授業、協働学習、課題解決型学習等といった学習方法を単元内で目的に応じて使い分けることが重要であると考えている。

(委員)

学習内容に興味関心を持たせ、自ら学び、答えを見つけ出す過程で達成感や面白さを感じさせることが重要だと考えている。そのため、授業において児童生徒が自ら調べたり、研究したりする機会を増やし、達成感を味わえるような授業設計が必要であると考えている。

(委員)

小学校算数、例えば九九等の基礎が不十分なまま高学年、中学へと進級する児童生徒がおり、学習の遅れがある子供がいる。各学年で、基礎基本を徹底的に指導し、全員が理解できるレベルまで到達させる必要があると考えている。

岡山県学力・学習状況調査で総社市、美咲町、浅口市の数値が良くなっているが、何か取り組みをしているのか。

(義務教育課長)

岡山県学力・学習状況調査の結果、小学校算数の正答率は3年生で全国平均と同等だが、学年が上がるにつれて低下し、6年生では全国平均を下回る。しかし、中学校入学後には正答率が上昇する。これは、6年生では、小学校での学習内容を定着させてから送り出そうという思いから、基本を徹底的に復習してつまづきを解消している可能性がある。その他の学年でも同様に取り組んでいるが、担任は代わるものの同一校内であるため、6年次との対応に差が見られ、学習内容の継続的な定着に課題があると考えられる。

浅口市は中学校2年生の国語を除き全教科で全国平均を上回っているが、その要因については現時点では不明であるが、今後、数値が高い市町村に関わらず、特徴的な数値が見られる市町村の取組について詳細に分析する予定である。また、学力差の要因を分析するためには、授業方法、地域特性、学習環境、学習時間などを多角的に検討する必要がある。特に、岡山県の中学生の学習時間が全国平均を下回っている点については、本県の児童生徒の通塾率が低い点なども考慮すべきである。現在、21市町村(組合)で実施されている学力向上のための補充学習の取り組み状況についても調査し、好事例を他の地域に普及させることで、課題解決を図る必要がある。

以下、非公開のため省略

閉会